

審査の結果の要旨

論文提出者氏名 Hu, Huaichin (胡懷今)

台湾原住民は深い文化の伝統をもっており、南太平洋に散らばる各原住民の原点であるとの説もある。しかし、書き言葉を持たないため、次第にこの文化が消えつつある。本論文では、この文化、特に無形の文化保存の一例として、原住民の祭りの踊りの動的保存を試みたもので、「Representing Taiwanese Indigenous Folk Dances and Comparing with Interdisciplinary Studies (台湾原住民の民族舞踊の記録と学際的比較)」と題され6章よりなり、英文で記されている。

第1章は、「Introduction (序論)」と題し、研究の背景や対象としての台湾原住民の解説や舞踊、論文の構成などについて述べている。

第2章は、「Representing Taiwanese Indigenous Dances (台湾原住民舞踊の記述)」と題され、14の台湾原住民の部族の文化的特徴の概要を説明し、各部族の祭りの舞踊のラバ記述を得ている。さらに、これらのラバ記述を用いて舞踊の類似性に基づく、部族の舞踊の分類木を作成している。

第3章は、「Reconstruction of Labanotation Mapping on Humanoid Robot (ラバ記述のヒューマノイドロボット上での再構成)」と題され、2章で得られたラバ記述の再現性評価のため、代表的な舞踊について、ロボットシミュレータによる動きの再現を行った後、実際のミニチアヒューマノイドロボットによる再現を行っている。これにより、ラバ記述において何が記録されており何が欠けているかを考察している。

第4章は、「Comparing Dance Classification with Interdisciplinary Studies (舞踊分類の学際的研究比較)」と題され、第2章で得られたラバ記述による各部族の舞踊の分類木とDNAの類似による部族の分類木、言語の類似による部族の分類木、社会構造による部族の分類木の類似性を比較し、社会構造と祭りの舞踊の間に高い相関があることを得ている。

第5章は、「Exploring Dynamic Structure of Dance via Laban Effort (ラバエフォートを通じた舞踊の動的構造の模索)」と題し、ラバ記述は、静的なポーズの表現であり、ポーズとポーズをつなぐ動的な表現についての記述の必要性に言及し、このためラバエフォートと呼ばれる記述を導入し、これを用いた舞踊の再現方法を提案し、これを用いて踊り手により表現の差が大きくでるピューマと呼ばれる部族の盾踊りを例にとり、若者と老人の踊りの差を記述している。

第6章、「Conclusion (結論)」では、研究全体のまとめと今後の方向について記述している。

以上これを要するに、本研究は、消え去りつつゆく無形文化財の保存のための一提案として、台湾原住民の舞踊の動的保存を例にとり、台湾原住民の14の部族の祭りの舞踊のラバ記述を行い、得られたラバ記述の再現性のチェックのためロボットシミュレータやロボット実機による舞踊の動的再現を行い、ラバ記述の不足を補うものとしてラバエフォートによる動的再現を提案し、さらに得られたラバ記述を用いて祭りの舞踊の分類を行い、舞踊の分類木と言語や社会構成の分類木との比較を行い、社会構造の分類木と舞踊の分類木が類似することを見つけ出したもので、学際情報学に貢献するところが少なくない。よって、本論文は、博士(学際情報学)の学位請求論文として合格と認められる。